



令和 8 年 5 月 号
杉並区立堀ノ内子供園
園 長 大塚 玲華

「遊びはすべての土台」 園長 大塚 玲華

先日は親子で遊ぼう・保護者会にご参加いただき、ありがとうございました。保護者会の内容と、子どもたちが実際に遊んでいる様子から「子どもたちが遊びという直接的な体験をしながら様々なことを学んでいる」ことを少しでも感じていただけたのなら嬉しいです。引き続き様々な形で子どもたちの「遊びの中にある学び」を感じていただけるよう、取組みを行ってまいります。

さて、保護者会の時に少し話題にした、虫好きだった息子の話です。息子も幼児期には堀ノ内子供園の子どもたちと同じようにたくさん遊びました。息子が通っていた園では、東京なのに夏になると園庭の木にカブトムシが何匹もやってくるような園でした。そのような環境の中で、息子が一番興味・関心をもったのが虫でした。カブトムシの他にテントウムシ、ダンゴムシ、アリ、トンボ、チョウなども季節によって園庭に現れます。様々な虫を見つけ、じっくりと動きや形を見たり、触ったりすることをたくさん楽しみました。「虫を捕まえたーい!」とそっと歩いたり、素早く動いたり、屈みながら歩いたりするなど、色々な体の動きも経験しました。また、たくさん触れる中で虫に対する愛情が芽生え、死んでしまった時には大泣きするなど、生き物の「命」も感じるようになりました。

虫好きが他の遊びにも広がっていきました。「自分だけの虫がほしい」と今まであまり好んですることがなかった製作もするようになりました。虫にたくさん触れる中で感覚的に覚えていった虫の体の構造を再現しようと様々な方法で作ることを楽しみました。空き箱で作ったもの、平面に展開図をかき立体にしたもの、手足などが動くもの、細かく絵にかいた虫を空箱に入れ標本箱のようにしたものなど様々です。イメージしたものを様々な素材や用具、そして指先を使い、試行錯誤しながら繰り返し作ったりする経験をしました。標本に「虫の名前もかきたい」と文字にも興味をもつ姿もありました。作ったものをきっかけに友達とも関わり、人との関わり方も学んでいく様子が見られました。

園にある環境だけにとどまらず、カマキリ、バッタ、様々な種類のチョウやトンボ、ハナムグリなど様々な虫に興味をもち図鑑で調べ知識を深めたり、ありとあらゆる虫を卵から成虫まで育てたりするようにもなっていました。

園にある環境をきっかけに虫に興味・関心をもち、様々な形に変化しながらたっぷり遊び、その中で必要な経験を積み重ね学んでいった園生活でした。そして、その後小学生、中学生へと成長していく様子を見て、息子が遊びながら経験したことが「(虫以外の) 興味・関心をもったことに対して、とことん自分から知ろうとする姿」「ワクワクしながら試行錯誤する姿」「指先を自分が思うようにコントロールさせ、文字をかく姿」「季節と生き物のサイクル、生き物の体の作りなど遊びという直接体験から感覚的に知ったことが、学習につながっていくこと」「様々な体を動かすことができる運動面での育ち」「友達と一緒に楽しく過ごそうとする姿」「豊かな感情」につながっていることを親として実感しています。

園での遊びを通した経験と学びは、小学校以降の「学習」だけにとどまらず、人間として、社会と関わる人として生きていく中でどれも大切な土台であった、と感じています。

保護者会でもお伝えしました通り、堀ノ内子供園でも子どもたちの遊びと、その中での豊かな経験と学びをとても大切にしています。意図的な環境や保育者の援助を通して、子どもたちが何かに興味・関心をもち、たくさん遊び、人と関わり、学んで育っていくことができるように日々の教育・保育をしっかりとすすめてまいります。



・今月の指導・

うさぎ組

入園から約一か月が経ちました。少しずつ園生活にも慣れ、担任に見守られたり、担任と一緒に遊んだりする中で、安心して過ごす姿が増えてきました。「赤ちゃんのお世話をするの。」「ちょうちょう作りたい!」「今日もダンゴムシ探そう!」など、自分のやりたいことを見つけて遊び、楽しんでいる様子も見られます。子供園で毎日過ごす中で、少しずつ身支度の仕方を知り、持ち物の始末や弁当の準備を自分でやってみる姿も見られるようになってきました。毎日繰り返しやってみることで「できた!」という嬉しさを積み重ねています。

5月は次のことを重点に指導していきます。

- 保育者と一緒に好きな遊びを見つけて遊ぶ。
- 保育者に手伝ってもらいながら、朝や帰りの支度、弁当の準備や片付けなど、生活の進め方を知り、やってみようとする。

連休が明けると、また寂しい気持ちが出てきて、保護者の方に甘える姿が出てくるかもしれません。園では、お子さんの気持ちを温かく受け止め、一緒に過ごす中でやりたい遊びを見付け、「楽しかった!」「明日も子供園に行きたい!」という思いで降園できるようにしていきます。ご家庭でも、お子さんの気持ちを聞きながらゆったりと過ごしてください。少しずつ、園での生活リズムを取り戻していきましょう。

ぱんだ組

進級・入園して1か月が経ちました。大きくなった嬉しさを感じて、身の回りのできることを自分でやってみようとしています。保育者に関わりながら、新しい環境にも少しずつ慣れて安心してきました。

「こうして遊んでみたい」という自分なりの思いを保育者に出しながら、乗り物やごちそうなど、ものや場を作ることを楽しんだり、友達と誘い合って遊ぶことに嬉しさを感じたりして、やりたい遊びを楽しんでいます。

5月は、次のことを重点に指導していきます。

- やりたい遊びや興味をもった遊びに関わって遊ぶ中で、自分の思いを言葉や動きに表そうとする。
- 保育者や気の合う友達と触れ合って遊ぶ楽しさを感じる。
- 園での生活の流れが分かり、自分でできることは自分でしようとする。

保育者や気の合う友達に対して、どの幼児も思いを様々な方法で出す心地よさを味わえるように、思いを受け止め、やりたいことを叶える方法を提案したり、友達との橋渡しをしたりして支えていきます。園でもご家庭でも安心して過ごせるよう、ご家庭での姿やお子さんのしていた話など、何気ないことでもお声掛けください。

きりん組

きりん組になって1か月がたちました。「きりん組だからできるよ!」と張り切って生活をしたり、遊んだり、歓迎会の取り組みをしたりしてきました。また、新しい環境や保育者に慣れてきて、自分のやりたいことを友達や保育者と一緒に楽しんでいます。こいのぼりの製作や友達との関わりの中では、思いが同じ場面もありますが、違う場面もありました。違った時には友達や保育者と話をし、相手に自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりして、折り合いをつけていくにはどうしたらよいか考えています。

5月は、次のことを重点に指導していきます。

- 遊びにイメージやめあてをもって自分なりに楽しんだり、気の合う友達と一緒に遊んだりする。
- グループや学級のみんなで一緒に遊びや活動に取り組むことを楽しみ、つながりを感じる。

今月は遠足があります。学級のみんなで経験したことをもとにグループや学級の友達とめあてをもって遊びや活動に取り組み始めます。友達との思いの調整が難しくて悩んだり、進級して張り切っていた分、疲れをみせたりする姿も増えると思います。ご家庭と園で連携しながら気持ちを受け止め、支えていきたいと思います。気になる姿がありましたら、いつでもお声掛けください。

